

2009年度2学期木曜1時限「認識するとはどういうことか？」

第8回講義（2009年11月26日）

■ Was bisher geschah.

§ 8 心身問題

1. 「観念論か实在論か」から「心身問題」へ

■ 問題の逆転

「観念論か实在論か」という問題では、「対象の知覚像の背後に物自体が実在するかどうか」が問題であった。

これに対して「心身問題」では、物が存在することは前提されていて、「心は物と同一であるかどうか、もし異なるとすればそれはどのように存在するのか」が問われている。

つまり、問題意識が逆になっている。

■ 「観念論 vs 实在論」論争の歴史的な背景

近代哲学はデカルトにはじまると言われている。デカルトは、方法的懐疑によって「われ思う、ゆえに我あり」という確実な知を発見したからである。しかし、その「我」とは延長をもたない思考する精神であり、他方に延長をもつ物体を認めるが、精神と物体はまったく異質であり、互いに作用しあうことのないものと考えられた（物心二元論）。

心が物体から影響をうけないとすると、すべての認識は心の中で生じることになる。そこで、ライプニッツは、心の中の変化と物体の変化が平行して生じていると考えた（平行説）。スピノザは、一元論を取り、精神と物体を二種類の実体とせず、一つの実体（神）の二つの属性であると考えた。心の自由はなく、すべての事柄があらかじめ決定されていると考えた（決定論）。

ロックは、心と物自体の間に相互作用を考えた。バークリは、心の一元論（観念論）を考えた。こうして、ここに物自体の存在をみとめるかどうかをめぐって「観念論 vs 实在論」の論争が生まれた。

カントは、物自体については不可知論をとり、現象界における物の实在性（客観的な妥当性）を主張した（経験的实在論）。これに対して、フィヒテは物自体を否定し、観念論を主張した。

■ なぜこのような逆転が生じたのだろうか。

心の哲学は、分析哲学から生まれてきたものである。分析哲学は、ラッセルやムーアの観念論批判から生まれてきたので、分析哲学では实在論が一般的である。また、心の哲学は、認知科学や脳科学やコンピュータ科学の進歩によって始まった議論である。これらの

学問では、科学が扱う対象の实在が前提になっている。(科学的实在論)

■他方で、科学的实在論をめぐる議論があって、この論争は続いている。この論争は、「観念論か实在論か」という伝統的な論争を受け継いでいる。なぜなら、科学理論が想定する対象が实在するかどうかを問題にすると、科学を考えている心が存在することは前提されているように思われるからである。

■バブルの崩壊後、しばしば「心の時代」という言葉で、物質的な便利さ、豊かさでは、人は幸福になれないことがわかったので、心の豊かさを重視すべきことが主張される。しかし、科学的实在論が信じられているとすれば、その世界に「心」の存在する余地は無い。「心の時代」といってもそれは原理的に不可能である。

本当に心の豊かさが重視される社会が可能になるためには、世界の中での「心」の存在論的な位置づけを確定する必要がある。

2、心身問題に関する立場の整理

二元論 Dualism

実体二元論 substance dualism:

デカルト Descartes, ポパー Popper, エクルズ Eccles,

性質二元論 property dualism: = 随伴現象説 epiphenomenalism:

ハクスレー Thomas Henry Huxley (1825-1895)

一元論 Monism

観念論 Idealism: Berkely, Hegel, Bradley, and Royce

唯物論 Materialism 物理主義 Physicalism

機能主義 functionalism: 心は、脳の機能に還元される。

■同一説

チューリングテストを合格したコンピュータには心があるとすると、心を AI の機能と同一視している。

古典的同一説 classical identity theory:

スマート J. J. C. Smart, D.

ローゼンタール Rosenthal,

ファイグル H. Feigl

アームストロング D. M. Armstrong

タイプ同一説 type identity theory:

トークン同一説 token identity theory

■消去的唯物論 **Eliminative materialism:**

もしチューリングテストに合格したコンピュータには心が無いとすると、
生物コンピュータである人間にも心は無いと考える消去主義になる。

ローティ R. Roty,

ファイアーアーベント P. Feyerabend,

チャーチランド Paul and Patricia Churchland

●非法則的一元論 **Anomalous Monism: Davidson**

●生物学的自然主義 **Biological Naturalism: John Searle**

3、心身問題における中心問題：「機能主義はただしいのか？」

(1) クオリア **qualia** (sg. **quale**) をどう説明するのか？

機能主義への批判：それはクオリアを説明できない。

<思考実験>

■逆転スペクトルの思考実験

■トマス・ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」

■フランク・ジャクソン「メアリーが知らなかったこと」

色盲の神経科学者の例

(しかし、メアリーは、見るだけで色を識別できるようになるので、機能の
変化があったといえる。)

■ジョン・サール「中国語の部屋」

中国語の記号が入った箱とルールブックをつかって、中国語の質問に回答する。

■チャルマーズの「哲学的ゾンビ」の想定

これらの例は、クオリアの差異や有無は、機能の違いとしては説明できない例である。

これらは、クオリアの存在を仮定した議論である。

これらは、クオリアは脳の機能には還元できないと主張する。